



大学入試のプロが語る 2025年度入試はこうなる



◀動画での詳しい説明や
大学パンフの取り寄せはこちらから
<https://qrtn.jp/k7i3z>

大学入学共通テストの実施など、保護者世代とは大きく様変わりした大学入試。なぜ入試は変わったのか？
今の入試のしくみで押さえておくべきポイントは何か？
入試分析の専門家に話を聞いた。



ベネッセコーポレーション
学校カンパニー
教育情報センター センター長

たに もと ゆう いち ろう
谷本祐一郎

大学の情報収集や高校の取材で全国を行き来する、大学入試のプロフェッショナル。高校での講演経験も多数。

社会の大きな変化とともに 入試も変わっている

近年、社会はとて速いスピードで、変わりつつあります。少子高齢化によって現役世代が減り、働き方自体が変化すると考えられます。テクノロジーも目覚ましく進化しています。AIやロボットが社会に進出し、人間がすべき仕事も変わっていくでしょう。グローバル化の進展も見逃せません。

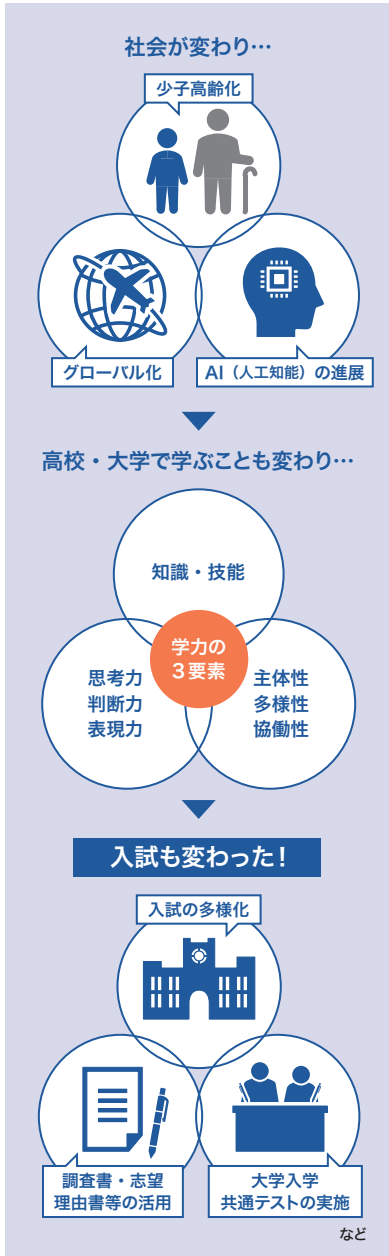
今の大学入試は 「学力の3要素」を測る

国内にいようとさまざまな国の人と一緒に働いたり、生活したりすることが増えていくのではないのでしょうか。

このように先の予測が困難な時代になると、これまで正しいとされてきたやり方が通用しなくなります。今後、社会で強く求められるのは「答えのない課題に立ち向かっていける人」。こうした人材を育てるため、高校も大規模な知識の修得だけでなく、その知識を活用する思考力、新しいことを学び続けようとする主体性といった「学力の3要素」をバランスよく身に付けられる教育を重視するようになりまし。そうすると、高校と大学の間にあ

保護者が注意すべきは スケジュール

保護者が、まず気をつけたいのは、総合型選抜（旧AO入試）、学校推薦型選抜（旧推薦入試）の受験者が近年ぐっと増えている点です。私立大学はもちろん、国公立大学でも総合型選抜・学校推薦型選抜で入学する人が20%以上います（33ページ参照）。この2つの入試は、以前と比べて日程が後ろ倒しになり、不合格だった場合、すぐに一般選抜へと気持ちを切り替えるなければいけません。これらの方式で受験する予定の場合、並行して一般選





多くの国公立大学は共通テストと個別試験の結果で合否を判定します。前期日程では2、3教科の学科試験を課すケースがほとんど。後期日程は1、2教科に減らすケースや、小論文、面接の準備をしましょう。

▼「大学入学共通テスト」

2021年度から大学入試センター試験に代わり導入された試験。国公立大学の1次試験として用いられるほか、多くの私立大学も利用しています。形式は、センター試験同様に「マーク式」のみですが、グラフや地図、写真など、複数の資料から内容を読み取り、考察するタイプの問題が増えました。

▼「国公立大学 個別試験」

多くの国公立大学は共通テストと個別試験の結果で合否を判定します。前期日程では2、3教科の学科試験を課すケースがほとんど。後期日程は1、2教科に減らすケースや、小論文、面接の準備をしましょう。

▼「学校推薦型選抜（旧推薦入試）」

学校推薦型選抜は主に書類審査で合否が決定されます。調査書に記載される学習成績の状況や学習成績概評、課外活動の実績などが評価されます。近年、学校推薦型選抜、総合型選抜の人数が高まっており、私立大学に進学した学生の約6割が学校推薦型選抜、総合型選抜で入学しています。

入試を知ること、合格の可能性を高めることにつながります。「得意科目を生かせる入試」「課外活動などでの努力や実績を評価する入試」など、子どもの実力を最大限に生かせる入試を活用することは、志望校への合格をめざすうえで大切です。一方、「今の入試制度の知識がない」という方も少なくないでしょう。ここで入試のしくみをあらためて確認しましょう。

▼「私立大学 一般選抜」

私立大学の一般選抜は、文系学部、理系学部ともに3教科が大半です。ほとんどの大学が共通テストの結果で合否を決める「共通テスト利用入試」や、全学部の入試を同日に行う「全学部統一入試」など、多様な入試方式を設けています。志望校の入試を調べ、最適な受験プランを検討しましょう。

▼「総合型選抜（旧AO入試）」

受験生の個性や適性、志望理由、大学との相性が総合的に評価される入試。合格のチャンスを広げられるとして、国公立・私立を問わず、年々受験者数を増やしています。入試内容は、大学によって大きく異なりますが、共通テストや小論文など、なんらかの形で学力評価が必須となっています。

接、総合問題など、学力試験以外の方法を採る大学が多くなっています。

2025年度入試関連イベントスケジュール

時期	受験イベント
4月5日	◎進路ガイダンス・説明会 ◎奨学金の申し込み準備 ◎保護者会
6月	◎私立大学総合型選抜説明会（例年）
7月8日	◎オープンキャンパス ◎保護者会・三者面談
9月	◎大学入学共通テスト受験科目決定（目安） ◎総合型選拔出願 ◎大学入学共通テスト受験案内配付（例年）
10月	◎一般選抜・学校推薦型選抜願書取り寄せ ◎大学入学共通テスト出願（例年）
11月	◎私立大学受験校決定（目安） ◎国公立・私立大学学校推薦型選拔出願 ◎総合型選抜合格発表開始～入学手続き
12月	◎国公立大学受験校決定（目安） ◎三者面談 ◎学校推薦型選抜合格発表開始～入学手続き
1月	◎大学入学共通テスト ◎国公立大学個別学力検査出願
2月	◎私立大学一般選抜 ◎合格発表～入学手続き ◎国公立大学前期試験
3月	◎公立大学中期試験 ◎合格発表～入学手続き ◎国公立大学後期試験

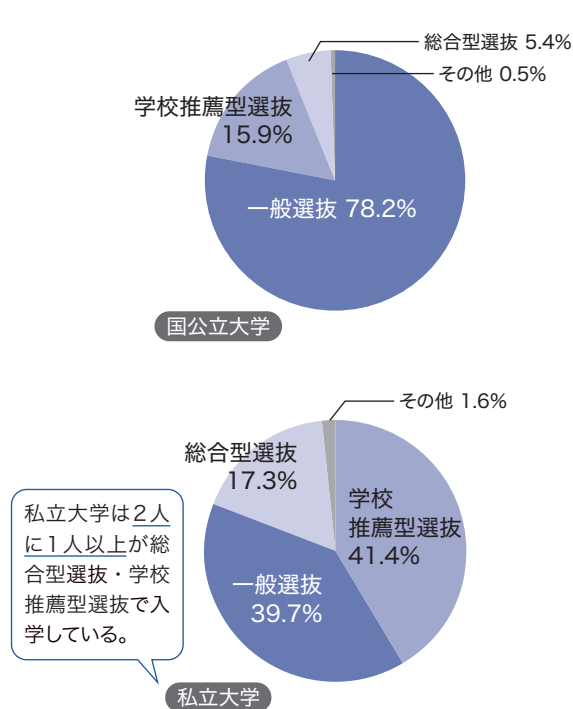
※受験イベントは2024年2月時点の情報を基に作成しています。変更になる場合がありますので、最新情報をご確認ください。

2025年度からは「新課程入試」がスタート

2025年度入試からは新学習指導要領に対応した「新課程入試」が始まります。特に注目すべきは受験科目に変更がある点です。大学入学共通テストでは新教科「情報」が加わり、地歴・公民でも「歴史総合、日本史探究」などの受験科目が登場します。これらは過去問がないため、授業や模試での演習がより重要になるでしょう。また、「国語の問題構成が変更」「国語や数学など、一部の科目で試験時間が延びる」などの変更もあります。

大学入学共通テストにおける注目の変更ポイントは下の表にまとめています。Q&Aの情報と合わせてぜひ確認してください。

入試制度別入学者数の割合（2023年度）



※文部科学省「令和5年度国公立大学入学選抜実施状況」を基に作成。 ※小数点以下1位未満を四捨五入して算出した割合のため合計100%にならない場合があります。

大学入試の主な方式（選抜区分）

一般選抜 (旧：一般入試)	総合型選抜・学校推薦型選抜 (旧：AO入試)				
<p>学力を重視した選抜</p> <table border="1"> <tr> <th>国公立大学</th> <th>私立大学</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●原則「大学入学共通テスト」+「個別学力検査」 ●多くの大学で、大学入学共通テストに5教科（ないし6教科）7科目課す ●個別学力検査は記述式、論述式が多い ●配点パターンは大学によって異なる </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●一般的に3科目程度、課すケースが多い ●「共通テスト利用入試」「全学統一入試」など、大学ごとに多様な入試方式がある ●得意科目を生かした受験が可能 </td> </tr> </table>	国公立大学	私立大学	<ul style="list-style-type: none"> ●原則「大学入学共通テスト」+「個別学力検査」 ●多くの大学で、大学入学共通テストに5教科（ないし6教科）7科目課す ●個別学力検査は記述式、論述式が多い ●配点パターンは大学によって異なる 	<ul style="list-style-type: none"> ●一般的に3科目程度、課すケースが多い ●「共通テスト利用入試」「全学統一入試」など、大学ごとに多様な入試方式がある ●得意科目を生かした受験が可能 	<p>書類審査、小論文、面接が中心</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高校での学業成績、部活、行事で取り組んだことなどを見て、総合的に判断 ●大学入学共通テストなどの学力試験を課す大学もある。また筆記試験を課さない場合も、高校の成績を評価するなど、何らかの形で学力を評価する ●学校推薦型選抜は、学校長推薦が必要（原則） ●総合型選抜は、学校長推薦が不要（原則） ●一般選抜よりも早い時期に実施される
国公立大学	私立大学				
<ul style="list-style-type: none"> ●原則「大学入学共通テスト」+「個別学力検査」 ●多くの大学で、大学入学共通テストに5教科（ないし6教科）7科目課す ●個別学力検査は記述式、論述式が多い ●配点パターンは大学によって異なる 	<ul style="list-style-type: none"> ●一般的に3科目程度、課すケースが多い ●「共通テスト利用入試」「全学統一入試」など、大学ごとに多様な入試方式がある ●得意科目を生かした受験が可能 				

新課程入試 共通テストのポイント ※ベネッセ調べ。2023年11月末の情報に基づいて掲載

教科	ポイント
国語	大問が1大問増えて、試験時間が現行の80分から90分へ10分延長される。増える1大問は「 実用的な文章 」を素材とした出題が想定される。
地歴、公民	2科目必要な場合、例えば『歴史総合、日本史探究』と『地理総合/歴史総合/公共（歴史総合および公共を選択）』など、 選択できない科目の組み合わせがある場合もあるので注意が必要 。
数学①数Ⅰ、A	数Aは選択問題がなくなり、 出題された問題は全問必答 。
数学②数Ⅱ、B、C	出題範囲に 数学C が含まれ、選択大問から数Cの分野で必ず1つは解答が必要。試験時間も現行の60分から70分へ10分延長される。
情報	新設となる「 情報Ⅰ 」の試験時間は60分。「コンピュータとプログラミング」から100点満点中46点程度の配点が想定される。

※令和7年度大学入学共通テスト 試作問題「情報」の概要から想定

知っておきたい 2025年度入試 Q&A ※ベネッセ調べ。

- Q** 大学入学 共通テストの特徴は？

A センター試験と比べて「日常的な出来事や社会事象を題材にしている」「複数の資料から情報を読み取って考察する」問題が多いこと。教科の知識さえ身に付ければ解けるとは限らず、その知識を応用して解き方から考える「思考力」が試される試験といえます。
- Q** 一般選抜では 志望理由は関係ない？

A 一般選抜でも志望理由書を合否判定に採用する大学が出てきています。「なんとなく」では合格できない可能性があるのです。志望理由を明確にするには、大学調べは、併願校を含めて時間をかけて行うことが大切。大学パンフ等で志望校の特徴や求める人材像をよく理解しておきましょう。
- Q** 共通テストで 「情報Ⅰ」の受験は必須？

A 新教科「情報Ⅰ」は、国公立大学の募集単位の81.7%が受験必須です。私立大学で「情報Ⅰ」を必須とするところは少ないですが、募集単位の50.8%が選択可能にしています。国公立大学との併願も含めて考えると「情報Ⅰ」を活用できるほうが、志望校選びの選択肢が広がるでしょう。